

令和元年度

環境・生態系維持・保全活動等調査事業

海浜等清掃活動実施状況調査

報告書

(海の羽根基金事業)

令和2年3月

公益財団法人海と渚環境美化・油濁対策機構

まえがき

この報告書は、令和元年における海浜等清掃活動実施状況（1～12 月）のとりまとめを 47 都道府県にお願いし、36 都道府県から回答を頂き、その結果を集計して報告書としたものです。岩手、宮城、福島 の 3 県には東日本大震災以降調査依頼を停止しておりましたが、令和元年度から復帰して頂きました。

令和元年は 6 月に大阪で G20 が開催され、海洋プラスチックごみによる新たな汚染を 2050 年までにゼロにすることを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が合意されました。それに先立って取りまとめられた「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」では具体的・実効的な対策を 8 つの分野に取りまとめ、その中には「陸域での散乱ごみの回収」として清掃活動があります。「海洋に流出したごみの回収」では、海を生業の場として
いる漁業者に強い期待が込められたアクションもあります。

漂流ごみ等の回収・処理では水産庁と環境省が協力して取り組む動きが出ています。また関係省庁がそれぞれの業界の海洋ごみの回収処理について指針を作成するなど、海ごみの回収処分に関する制度設計が少しずつできているようです。今後現場での運用が始まれば、指針の改訂もあると思いますが、海浜等清掃活動の重要性はより高まると思います。

本報告書が全国の海、河川、湖沼を清掃している方々の活動に役立てて頂ければ幸いです。

令和 2 年 3 月

公益財団法人海と渚環境美化・油濁対策機構

目 次

1 調査結果の概要	1
2 調査方法	2
2-1 調査の手順	2
2-2 海浜等清掃活動実施状況調査票の配布先と回収状況	3
3 海浜等清掃活動実施状況調査結果	17
3-1 活動の規模	17
3-2 ごみの回収状況	22

1 調査結果の概要

海浜等清掃活動実施状況調査は、各都道府県に調査票を配布し、その回答を集計する方法で行った。全国 47 都道府県を対象として調査票を配布し、うち 36 都道府県から回答があった。

■活動回数及び活動場所

令和元年には、全国で延べ 14,920 回の清掃活動が行われ、延べ約 92 万人が参加した。清掃活動時期としては、6 月、7 月、8 月が多くこの 3 ヶ月で全体の約 39%にあたる 5,749 回の活動が行われていた。

参加人数を活動場所別にみると、海岸と河岸での活動が多く、海岸の清掃に参加した人数が約 61 万人、河岸の清掃に参加した人数が約 28 万人であり、この 2 つをあわせると全体の参加人数の約 97%を占めていた。

延べ清掃距離を参加人数で除した 1 人あたりの清掃距離は、海岸が約 29.5 m、河岸が約 10.5 m、湖岸が約 19.2 m であった。

■主催者及び参加者

清掃活動の主催者、参加団体ともに行政の割合が多く、主催者としては 42.6%、参加団体としては 32.1%を占めていた。また、地域関係は主催者として 22.6%、参加団体として 24.2%を占めており、地域関係に次いで大きな役割を果たしていた。

参加者の内訳は、成人男子が半数以上の 56.9%、成人女子が 23.5%、中・高校生が 9.7%、小学生以下が 9.9%であった。

■ごみ回収量

ごみの回収量は、全体で約 6 万 2 千 m^3 であった。なお、ここでの回収量はごみの種類を把握している場合と、総量のみ把握している場合の合計値である。

場所別では海岸が約 5 万 2 千 m^3 で最も多く、次いで河岸が約 5 千 m^3 となっており、この二つを合わせると全体の約 93%を占めていた。

参加者 1 人あたりのごみ回収量は、海域が最も多く 0.31 m^3 、次いで海岸が 0.09 m^3 、河岸が 0.023 m^3 となっており、最も少なかった湖岸は 0.016 m^3 であった。

延べ清掃距離あたりのごみ回収量は、海岸が約 3.42 m^3/km で最も多かった。

2 調査方法

2-1 調査の手順

海浜等美化活動実施状況調査は、基本的に図 1 に示す手順にて実施した。

清掃活動で回収したごみ量の表記は、清掃実施者が簡便に定量的に記入できることから、体積（ m^3 ）での記録とした。

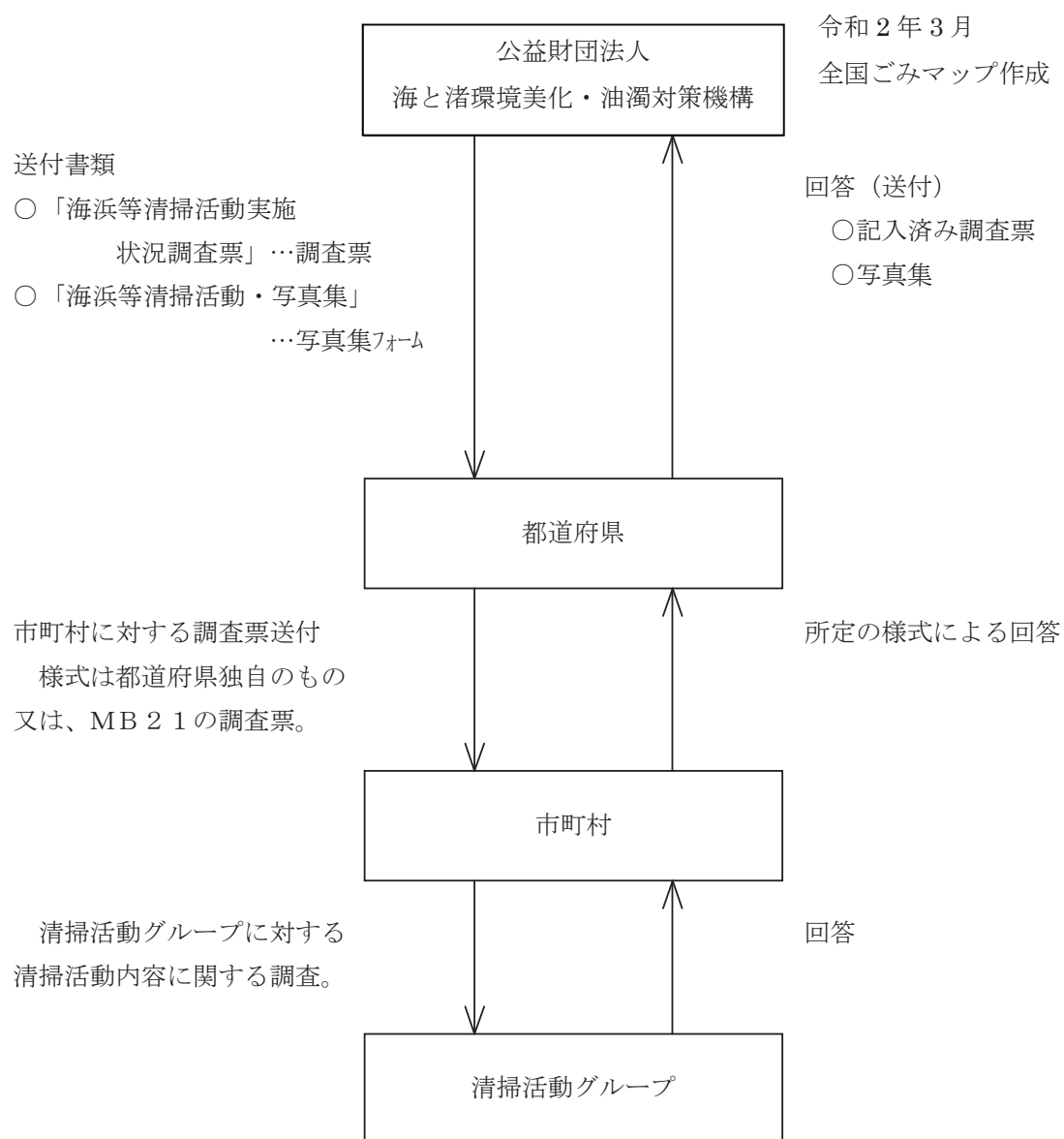


図 1 全国ごみマップ作成手順

2-2 海浜等清掃活動実施状況調査票の配布先と回収状況

海浜等清掃活動実施状況の調査票は、全都道府県を対象として配布し、表 1 に示す 36 都道府県から回答を得た。

表 1 調査票の回収状況

整理 番号	都道府県名	回収	整理 番号	都道府県名	回収
1	北海道	○	25	島根県	○
2	青森県	○	26	岡山県	○
3	岩手県	○	27	広島県	
4	宮城県	○	28	山口県	
5	秋田県	○	29	徳島県	○
6	山形県	○	30	香川県	○
7	福島県	○	31	愛媛県	○
8	茨城県	○	32	高知県	
9	千葉県	○	33	福岡県	○
10	東京都	○	34	佐賀県	○
11	神奈川県	○	35	長崎県	○
12	新潟県	○	36	熊本県	○
13	富山県	○	37	大分県	○
14	石川県	○	38	宮崎県	○
15	福井県	○	39	鹿児島県	○
16	静岡県	○	40	沖縄県	○
17	愛知県	○	41	栃木県	
18	三重県	○	42	群馬県	
19	滋賀県		43	埼玉県	
20	京都府		44	山梨県	
21	大阪府	○	45	長野県	
22	兵庫県	○	46	岐阜県	○
23	和歌山県	○	47	奈良県	
24	鳥取県	○	回収数		36

注：網掛けは調査票未回収の自治体である。

調査票（１）

海浜等清掃活動実施状況調査票の記入について
(個別調査票の場合)

本調査票の作成にあたっては、以下の要領にしたがって作成願います。

- 1) 広域に渡って一斉に清掃した場合は地区別あるいは団体別に作成して下さい。
- 2) 清掃活動が数日にわたる場合には連続する清掃活動は１回として記入して下さい。
- 3) 把握している範囲の内容について記入して下さい。
- 4) 体積（ m^3 ）換算

ごみ問題の検討のためには体積（ m^3 ）で把握するほうが判断しやすく、また清掃実施者が簡便に定量的に記入できることから、本調査では体積で集計することとしました。体積（ m^3 ）換算するための、目安となる表を参考として次に示しますので、見た目での概数で結構ですから体積表示でご記入して下さい。なお、この表は水域環境改善全国協議会事業の調査で使用して来たものです。不明な場合は $200\text{kg}=1\text{m}^3$ として計算して下さい。

体積（ m^3 ）換算の目安

項 目	数 量	体 積 の 目 安	備 考
マリンブルー 21 ごみ袋（自然物ごみ用）	1 袋	約 0.03 m^3	
マリンブルー 21 ごみ袋（自然物ごみ用）	約33袋	約 1 m^3	$0.03\text{m}^3/1\text{袋} \times 33\text{袋}=0.99\text{m}^3$
マリンブルー 21 ごみ袋（人工物ごみ用）	1 袋	約 0.015m^3	
マリンブルー 21 ごみ袋（人工物ごみ用）	約66袋	約 1 m^3	$0.015\text{m}^3/1\text{袋} \times 66\text{袋}=0.99\text{m}^3$
ごみ袋大（ $65\text{cm} \times 80\text{cm}$ ）	1 袋	約 0.045m^3	
ごみ袋大（ $65\text{cm} \times 80\text{cm}$ ）	約20袋	約 1 m^3	$0.045\text{m}^3/1\text{袋} \times 20\text{袋}=0.9\text{m}^3$
ごみ袋特大（ $80\text{cm} \times 90\text{cm}$ ）	1 袋	約 0.07 m^3	
ごみ袋特大（ $80\text{cm} \times 90\text{cm}$ ）	約14袋	約 1 m^3	$0.07\text{m}^3/1\text{袋} \times 14\text{袋}=0.98\text{m}^3$
ドラム缶：鋼製ドラム 1 種（ 200ℓ ） （直径約 $57\text{cm} \times$ 高さ約 85cm ）	1 缶	約 0.2 m^3	
ドラム缶：鋼製ドラム 1 種（ 200ℓ ） （直径約 $57\text{cm} \times$ 高さ約 85cm ）	5 缶	約 1 m^3	$0.2\text{m}^3/1\text{袋} \times 5\text{缶}=1.0\text{m}^3$
2 t ロングボディートラック	1 台	約 10 m^3	
2 t トラック	1 台	約 5 m^3	

調査票（2）

海浜等清掃活動実施状況調査票

（個別調査票の様式例）

記入年月日	平成 年 月 日
記入者 氏名	
〃 所属機関	
連絡先所在	都 府 市 道 県 村 町
電話番号	
報告書送信先 メールアドレス	@

1. 事業の内容

（1）活動が実施された期間に件数を記入して下さい。

（件）

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月

（2）清掃活動が行われた述べ距離、実距離を記入して下さい。

	延べ距離 (km)	実距離 (km)	面積 (km ²)
A 海岸			
B 河岸			
C 湖岸			
D 海域			
計			

注：「実距離 (km)」には、地域内の海岸や河川の総延長ではなく、実際に清掃活動の対象とした距離（範囲）を記入して下さい。

調査票（3）

2. 参加者について

（1）清掃活動を実施した場所別の参加者数を記入して下さい。

	参加者延べ人数（人）
A 海岸	
B 河岸	
C 湖岸	
D 海域	
計	

（2）参加者の内訳別の述べ人数を記入して下さい。

①総数	②成人男子	③成人女子	④中・高校生	⑤小学生以下	⑥不明
名	名	名	名	名	名

※④⑤については、男女を区別しなくて結構です。

調査票（４）

（３）活動の主催者、実施主体者を記入して下さい。ここで、主催者と実施主体者は、以下のものを指します。

- a. 主 催 者：清掃活動を主催した事業団体などの組織について、
区分毎に主催回数を記入して下さい。

区分		主催回数（回）
ア	行政（国、都道府県、市町村、外郭団体、出先機関等）	
イ	学校関係（小・中・高校、PTA等）	
ウ	水産運輸関係（漁協、漁連、漁港・港湾関係）	
エ	地域関係（自治会、町内会、老人会、子供会、婦人会、商工会、商店会、観光組合、海水浴場組合等）	
オ	青少年団体（ボーイスカウト、スポーツ少年団等）	
カ	企業関係（電力会社、製造業、金融、サービス業等）	
キ	マリンレジャー関係（釣り、ヨット、サーフィンの団体等）	
ク	その他（上記以外の各団体）	

- b. 実施主体者：実際に清掃活動を実施した事業団体などの組織について、
区分毎に実施回数を記入して下さい。

区分		実施回数（回）
ア	行政（国、都道府県、市町村、外郭団体、出先機関等）	
イ	学校関係（小・中・高校、PTA等）	
ウ	水産運輸関係（漁協、漁連、漁港・港湾関係）	
エ	地域関係（自治会、町内会、老人会、子供会、婦人会、商工会、商店会、観光組合、海水浴場組合等）	
オ	青少年団体（ボーイスカウト、スポーツ少年団等）	
カ	企業関係（電力会社、製造業、金融、サービス業等）	
キ	マリンレジャー関係（釣り、ヨット、サーフィンの団体等）	
ク	その他（上記以外の各団体）	

調査票 (5)

3. 回収したごみについて

(1) 清掃活動を実施した場所、回収したごみの量について、以下に記入して下さい。

記入にあたっての注意

- ・ 海岸、河岸、湖岸、海域のそれぞれの区分ごとに記入して下さい
- ・ 記入欄は3種類あります。ごみ量の把握状況に応じて記入して下さい。
ごみ組成の詳細を把握している場合は、その量を「回答表1」に記入して下さい。
人工物と自然物の別のみ把握している場合は、「回答表2」に記入して下さい。
総量しか把握していない場合は「回答表3」に記入して下さい。
- ・ 回答表1～3のごみ量に重複がないように記入して下さい。

A－海岸

回答表1 ごみ組成の詳細を把握している場合

人 工 物	可燃物	布・紙 m ³	材木、木片等 m ³	その他			計 m ³
	プラスチック類	ペットボトル m ³	弁当箱、トレイ m ³	ロープ、網	フロート、ブイ m ³	その他 m ³	計 m ³
	不燃物	缶類 m ³	ガラス m ³	その他			計 m ³
自 然 物		流木・草等 m ³	海草類 m ³	その他			計 m ³

回答表2 人工物と自然物の別のみ把握している場合

人工物ごみ量 (内訳は不明)	計 m ³
自然物ごみ量 (内訳は不明)	計 m ³

回答表3 総量しか把握していない場合

総計 m ³

調査票 (6)

B－河岸

回答表 1 ごみ組成の詳細を把握している場合

人 工 物	可燃物	布・紙 m ³	材木、木片等 m ³	その他			計 m ³
	プラスチック類	ペットボトル m ³	弁当箱、トレイ m ³	ロープ、網	フロート、フイ m ³	その他 m ³	計 m ³
	不燃物	缶類 m ³	ガラス m ³	その他			計 m ³
自 然 物		流木・草等 m ³	海草類 m ³	その他			計 m ³

回答表 2 人工物と自然物の別のみ把握している場合

人工物ごみ量 (内訳は不明)	計 m ³
自然物ごみ量 (内訳は不明)	計 m ³

回答表 3 総量しか把握していない場合

総計 m ³

調査票 (7)

C－湖岸

回答表 1 ごみ組成の詳細を把握している場合

人 工 物	可燃物	布・紙 m ³	材木、木片等 m ³	その他			計 m ³
	プラスチック類	ペットボトル m ³	弁当箱、トレイ m ³	ロープ、網	フロート、フイ m ³	その他 m ³	計 m ³
	不燃物	缶類 m ³	ガラス m ³	その他			計 m ³
自 然 物		流木・草等 m ³	海草類 m ³	その他			計 m ³

回答表 2 人工物と自然物の別のみ把握している場合

人工物ごみ量 (内訳は不明)	計 m ³
自然物ごみ量 (内訳は不明)	計 m ³

回答表 3 総量しか把握していない場合

総計 m ³

調査票 (8)

D－海域

回答表 1 ごみ組成の詳細を把握している場合

人 工 物	可燃物	布・紙 m ³	材木、木片等 m ³	その他			計 m ³
	プラスチック類	ペットボトル m ³	弁当箱、トレイ m ³	ロープ、網	フロート、フイ m ³	その他 m ³	計 m ³
	不燃物	缶類 m ³	ガラス m ³	その他			計 m ³
自 然 物		流木・草等 m ³	海草類 m ³	その他			計 m ³

回答表 2 人工物と自然物の別のみ把握している場合

人工物ごみ量 (内訳は不明)	計 m ³
自然物ごみ量 (内訳は不明)	計 m ³

回答表 3 総量しか把握していない場合

総計 m ³

調査票 (9)

4. 活動に対する支援状況について

事業実施における経費負担について、以下の項目毎に総件数と総額を記入して下さい。

①総額 件 万円	②行政 件 万円	③学校関係 件 万円	④水産運輸関係 件 万円	⑤地域関係 件 万円
	⑥青少年団体 件 万円	⑦企業関係 件 万円	⑧マリンレジャー関係 件 万円	⑨その他 件 万円

- ② 行政（国、都道府県、市町村、外郭団体、出先機関等）
- ③ 学校関係（小・中・高校、PTA等）
- ④ 水産運輸関係（漁協、漁連、漁港・港湾関係）
- ⑤ 地域関係（自治会、町内会、老人会、子供会、婦人会、商工会、商店会、観光組合、海水浴場組合等）
- ⑥ 青少年団体（ボーイスカウト、スポーツ少年団等）
- ⑦ 企業関係（電力会社、製造業、金融、サービス業等）
- ⑧ マリンレジャー関係（釣り、ヨット、サーフィンの団体等）
- ⑨ その他（上記以外の各団体）

調査票（10）

海浜清掃活動実施状況調査票
（海浜清掃活動事例集）

5 その他

（1）清掃活動の呼びかけ（主催）者、参加（実施主体）者となった事業団体などの組織名称
を記入し、当てはまる項目に○をつけて下さい。

☒	参加団体 市町村*1	参加団体名	区分*2	主催者*3	参加者*3
例	〇〇町	〇〇海岸美化クラブ	キ	○	○
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

*1：参加団体の所在地の市町村を入力して下さい。

不明な場合は活動した地区の市町村名を入力して下さい。

*2：区分は次のア～クの8つです。区分欄にア～クの記号を書いて下さい。

- ア 行政(国、都道府県、市町村、外郭団体、出先機関等)
- イ 学校関係(小・中・高校、PTA、職員組合等)
- ウ 水産運輸関係(漁協(婦人部・青壮年部含む)、漁連、漁港・港湾関係)
- エ 地域関係(自治会、町内会、老人会、子供会、商工会、商店会、NPO、観光組合、海水浴場組合等)
- オ 青少年団体(ボーイスカウト、スポーツ少年団等)
- カ 企業関係(電力会社、製造業、金融、サービス業、職員組合等)
- キ マリンレジャー関係(釣り、ヨット、サーフィン、ダイビングの団体等)
- ク その他(上記以外の各団体)

*3：主催者と参加者とは以下のものを指します。

主催者：清掃活動を主催した又は呼びかけた団体などの組織

参加者：清掃活動を実施した又は参加した団体などの組織

海浜等清掃活動・写真集

都道府県	
市町村	

写真No.

清掃前
(ごみが散乱集積している状況)

写真No.

清掃中
(清掃作業の状況等)

海浜等清掃活動・写真集

都道府県	
市町村	

写真No.

清掃後
(清掃が終わった直後の状況)

写真No.

回収されたごみ
(ごみの種類が判別出来るような写真)

3 海浜等清掃活動実施状況調査結果

3-1 活動の規模

(1) 活動回数

清掃活動を実施した月別の実施回数と割合を図 2 及び図 3 に示す。

令和元年には、全国で延べ 14,920 回の活動が行われた。特に 6 月、7 月、8 月の実施回数が多く全体の約 38.5%を占めた。

実施回数
(回)

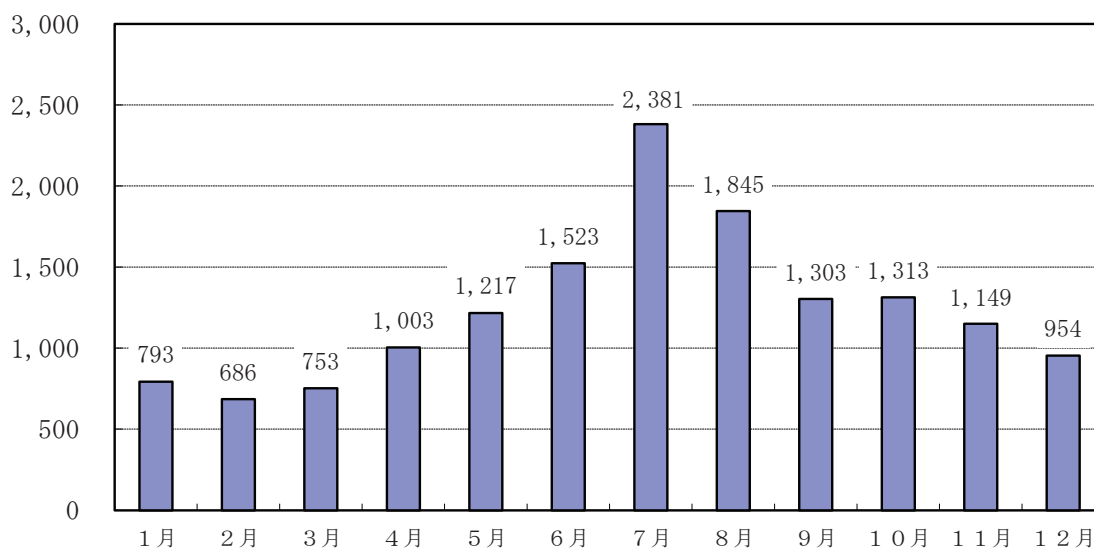


図 2 月別実施回数

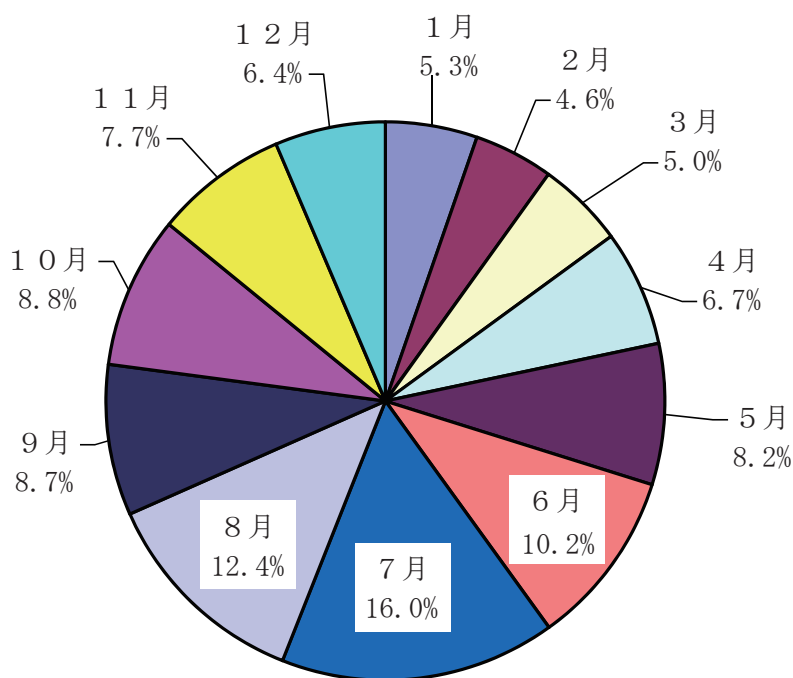


図 3 月別実施回数の割合

(2) 清掃を実施した場所別の清掃規模と参加人数

清掃実施場所別の清掃規模と参加人数を表 2 に、清掃実施場所別の参加人数の割合を図 4 に、参加者 1 人あたりの延べ清掃距離を図 5 に示す。

清掃活動の延べ参加人数は、約 92 万人であった。参加人数を活動場所別にみると、海岸（約 61 万人）と河岸（約 28 万人）での活動が多く、この 2 つをあわせると全参加人数の約 97% を占めた。

延べ清掃距離を比較すると、海岸が 1 万 5 千 047 km、河岸が 1 千 571 km であるのに対して湖岸は 486 km と短かった。海域の清掃面積は 4 千 949 km² であった。

延べ清掃距離を参加人数で除した 1 人あたりの清掃距離は、海岸は約 29.5 m、河岸が約 10.5 m、湖岸が約 19.2 m であった。

表 2 清掃実施場所別の清掃規模と参加人数

	全体	海岸	河岸	湖岸	海域
清掃人数（人）	923,750	611,882	280,510	25,390	5,968
清掃距離	延べ距離（km）	17,105	1,571	486	—
	実距離（km）	19,222	6,226	426	—
	面積（km ² ）	4,949	—	—	4,949

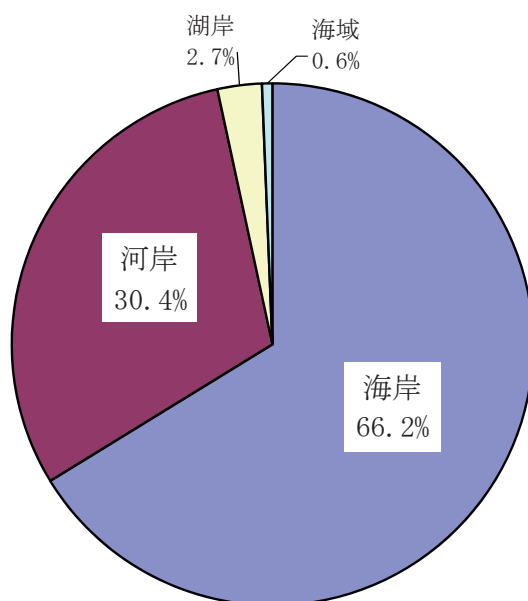


図 4 清掃実施場所別の参加人数の割合

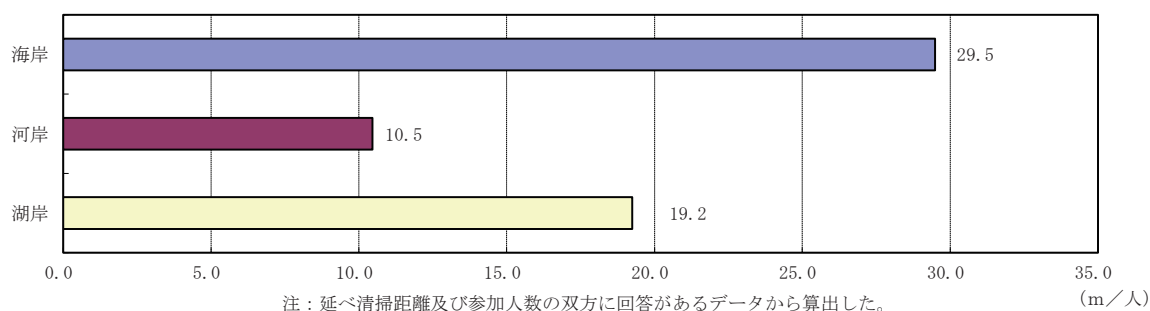


図 5 参加者 1 人あたりの延べ清掃距離

(3) 活動参加者の属性

参加者の属性を図 6 に示す。

参加者の内訳は、成人男子が56.9%、成人女子が23.5%、中・高校生が9.7%、小学生以下が9.9%であった。

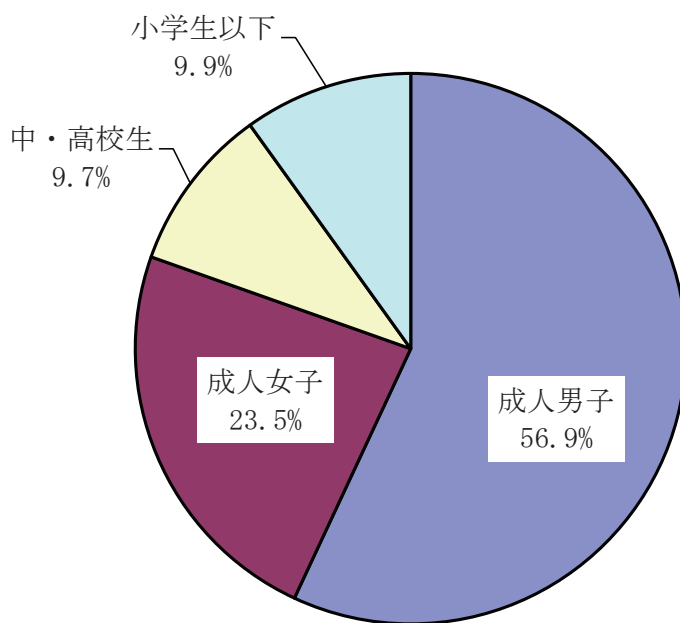


図 6 参加者の属性割合

(4) 清掃活動の主催者及び参加団体

清掃活動の主催者別割合を図 7 に、参加団体別割合を図 8 に示す。

清掃活動の主催者、参加団体ともに行政の割合が多く、主催者として42.6%、参加団体として32.1%を占めていた。また、地域関係は主催者として22.6%、参加団体として24.2%を占め、行政に次いで大きな役割を果たしていた。

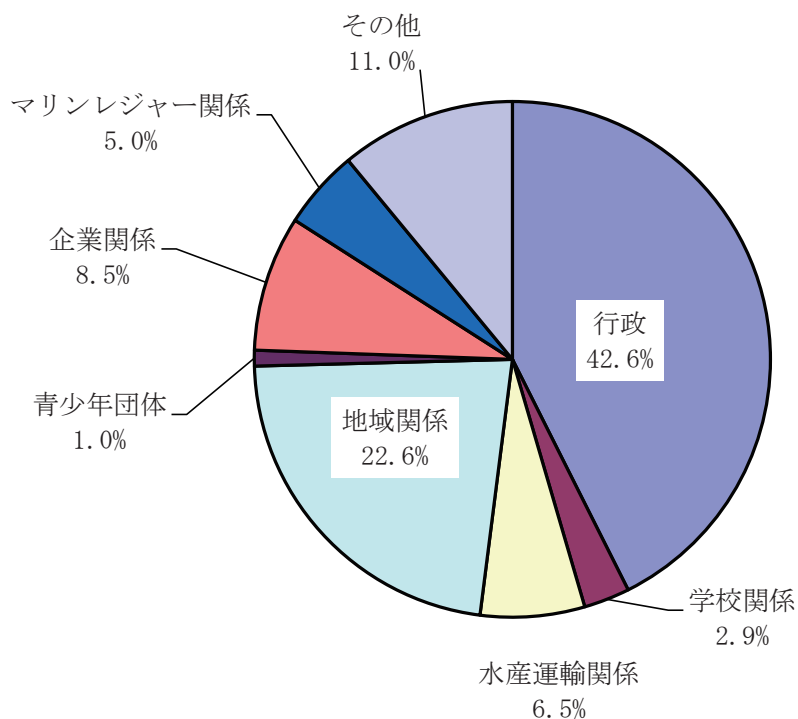


図 7 主催者別の実施割合

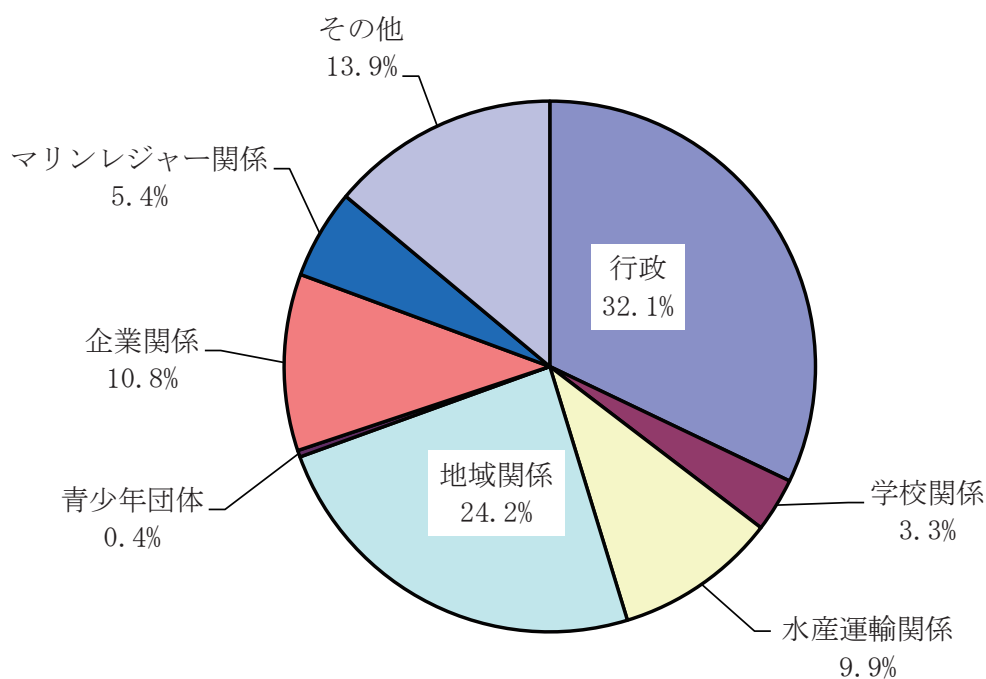


図 8 参加団体別の実施割合

(5) 活動に対する支援状況

清掃事業の経費負担団体件数の割合を図 9 に示す。

最も多かったのは行政で、全体の 43.5% を占めた。次いで、地域関係が 28.1%、水産運輸関係が 9.2% であった。

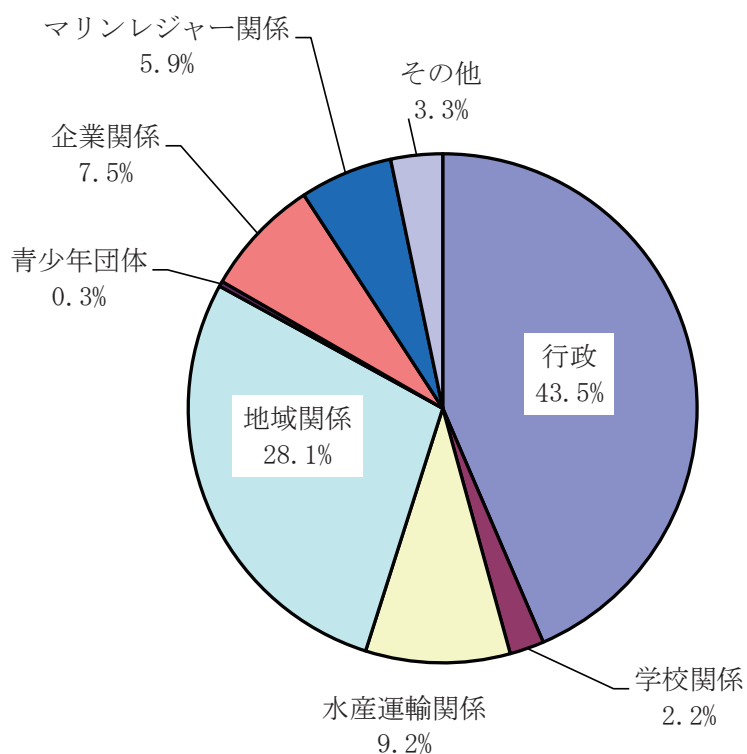


図 9 経費負担団体件数の割合

3-2 ごみの回収状況

(1) ごみの回収量

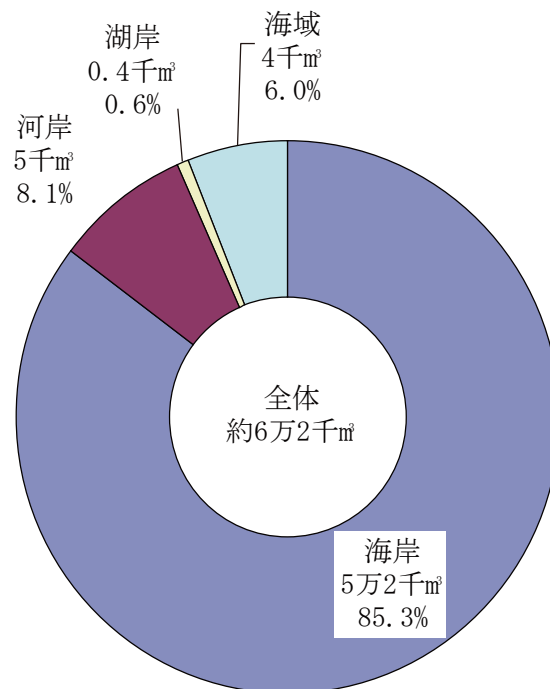
ごみ回収量とその割合を図 10 に、参加者 1 人あたり及び延べ清掃距離あたりのごみ回収量をそれぞれ図 11 及び図 12 に示す。

ごみの回収量は、全体で約 6 万 2 千 m^3 であった。なお、ここでの回収量はごみの種類を把握している場合と、総量のみ把握している場合の合計値である。

場所別では海岸が約 5 万 2 千 m^3 で最も多く、次いで河岸が約 5 千 m^3 となっており、この二つを合わせると全体の約 93% を占めていた。

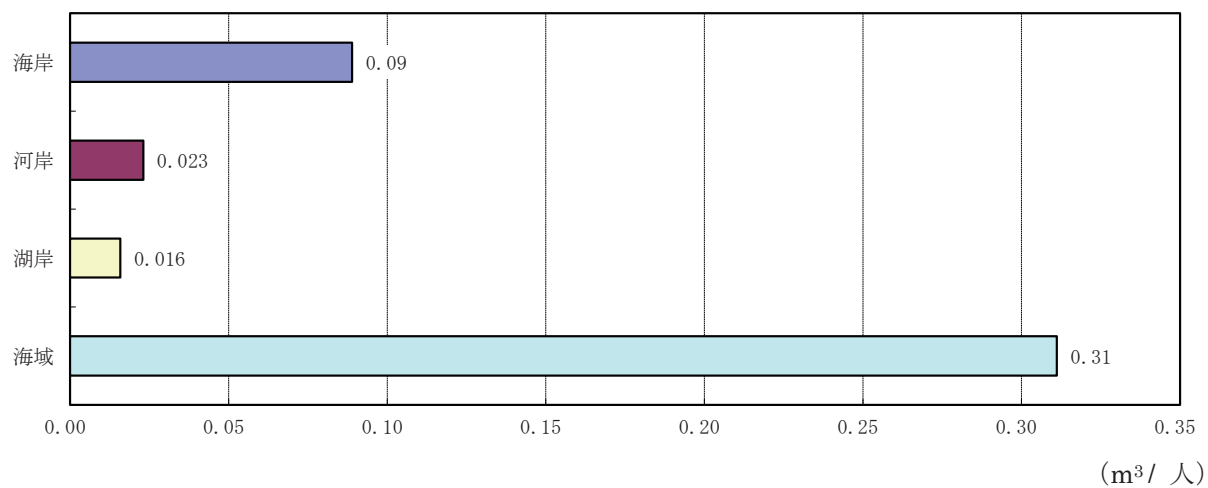
参加者 1 人あたりのごみ回収量は、海域が最も多く 0.31 m^3 、次いで海岸が 0.09 m^3 、河岸が 0.023 m^3 となっており、最も少なかった湖岸は 0.016 m^3 であった。

延べ清掃距離あたりのごみ回収量は、海岸が約 3.42 m^3/km で最も多かった。



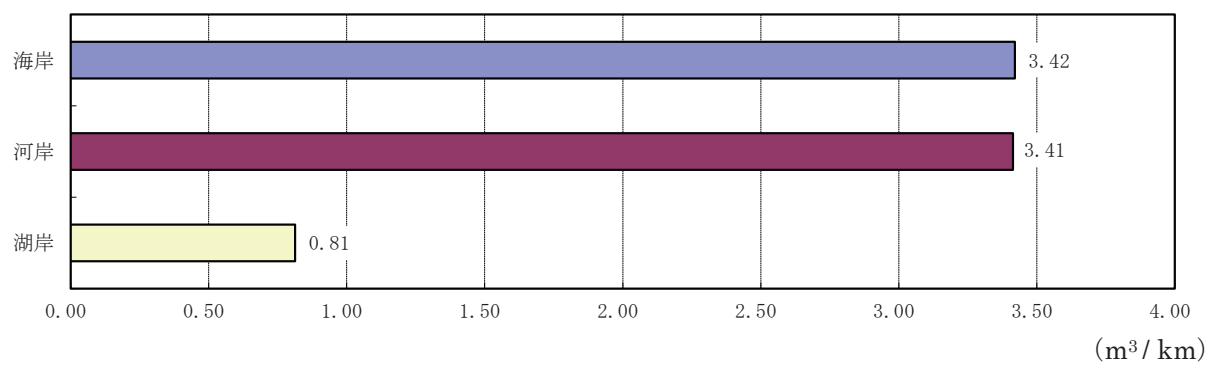
注：各値は四捨五入してあるため、合計はその内訳の合算値と一致しない場合がある。

図 10 ごみ回収量とその割合



注：場所別の参加人数及びごみ回収量の双方に回答があるデータから算出した。

図 11 参加者 1 人あたりのごみ回収量



注：延べ清掃距離及びごみ回収量の双方に回答があるデータから算出した。

図 12 延べ清掃距離あたりのごみ回収量

(2) ごみの種類

清掃を実施した場所別のごみ回収量及びその種類を表 3 及び図 13～図 17 に示す。なお、ここでの回収量はごみの種類を把握している場合のみの集計値である。

全体のごみ量に占める人工物と自然物の割合はおおむね 7 : 3 で、内訳をみると、人工物では木材・木片が多く（人工物その他を除く）、自然物では流木が多かった。

人工物と自然物の割合を場所別に見ると、海岸で約 7 : 3、河岸で約 2 : 8、湖岸で 10 : 0、海域では約 4 : 6 となっていた。

表 3 種類別のごみ回収量

単位：m³

種類	全体	海岸	河岸	湖岸	海域
布・紙	33 (0.4%)	28 (0.4%)	2 (0.5%)	2.8 (76.1%)	1 (0.5%)
材木、木片等	742 (9.9%)	727 (10.4%)	12 (4.0%)	0.0 (0.0%)	3 (1.5%)
ペットボトル	350 (4.7%)	340 (4.8%)	7 (2.4%)	0.0 (0.0%)	3 (1.5%)
弁当箱、トレイ	19 (0.2%)	18 (0.3%)	1 (0.2%)	0.0 (0.0%)	0 (0.0%)
ロープ、網	266 (3.5%)	218 (3.1%)	4 (1.3%)	0.0 (0.0%)	44 (22.2%)
フロート、ブイ	48 (0.6%)	47 (0.7%)	1 (0.3%)	0.0 (0.0%)	0 (0.0%)
缶類	165 (2.2%)	156 (2.2%)	8 (2.5%)	0.3 (8.2%)	2 (1.0%)
ガラス	59 (0.8%)	58 (0.8%)	1 (0.4%)	0.3 (8.2%)	0 (0.0%)
人工物その他	3,271 (43.5%)	3,210 (45.8%)	31 (10.3%)	0.3 (7.6%)	31 (15.4%)
人工物計	4,954 (65.9%)	4,802 (68.4%)	65 (21.9%)	4 (100.0%)	84 (42.1%)
流木	2,455 (32.7%)	2,114 (30.1%)	229 (77.1%)	0 (0.0%)	112 (56.4%)
海草	82 (1.1%)	78 (1.1%)	3 (1.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
自然物その他	24 (0.3%)	22 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)
自然物計	2,562 (34.1%)	2,214 (31.6%)	232 (78.1%)	0 (0.0%)	115 (57.9%)
合計	7,516 (100.0%)	7,016 (100.0%)	297 (100.0%)	4 (100.0%)	199 (100.0%)

注 1：各欄の値は四捨五入してあるため、人工物計・自然物計・合計はその内訳の合算値と一致しない場合がある。

注 2：ここでのごみ回収量はごみの種類を把握している場合のみの集計値である。

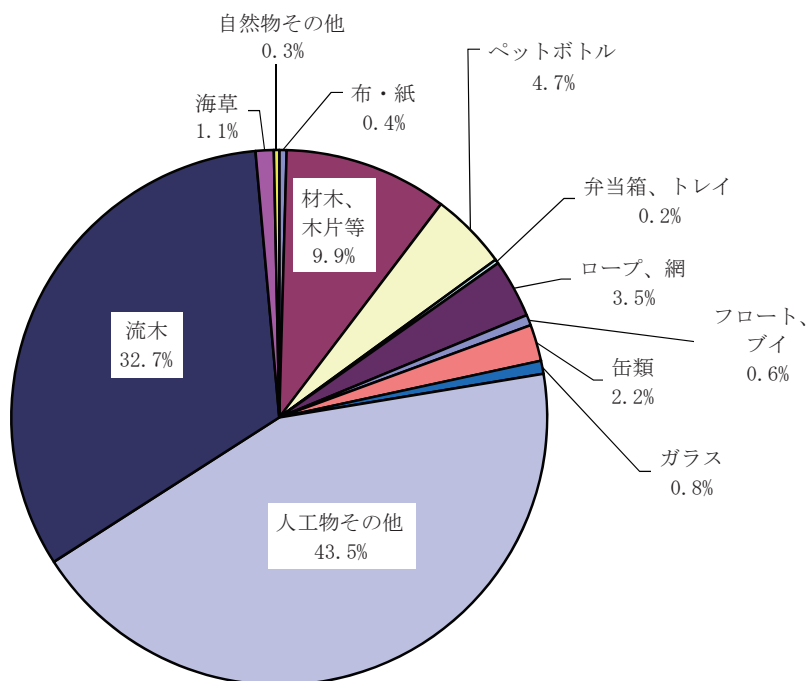


図 13 ごみの種類別割合（全体）

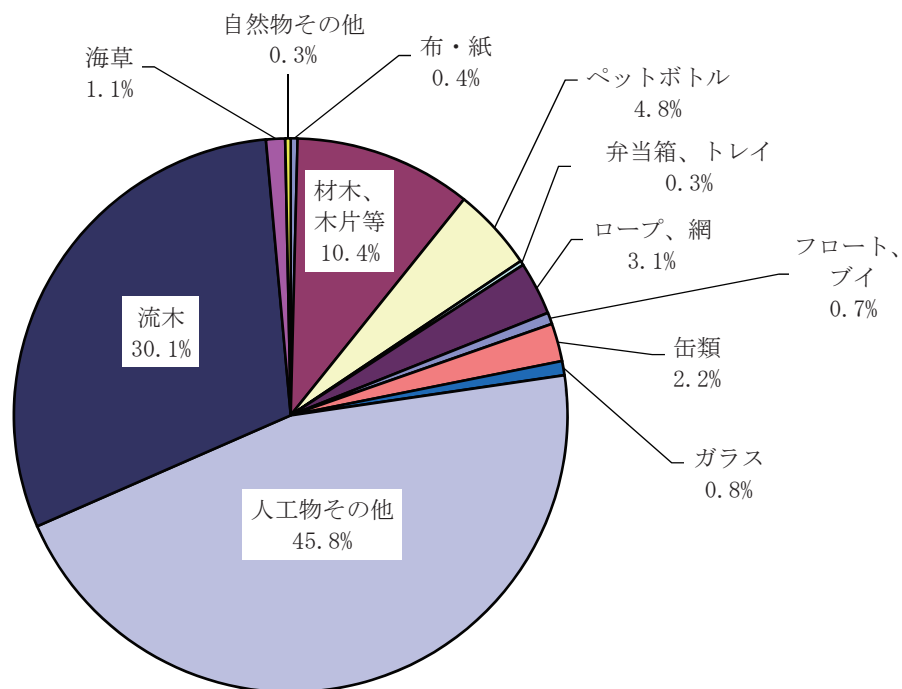


図 14 ごみの種類別割合（海岸）

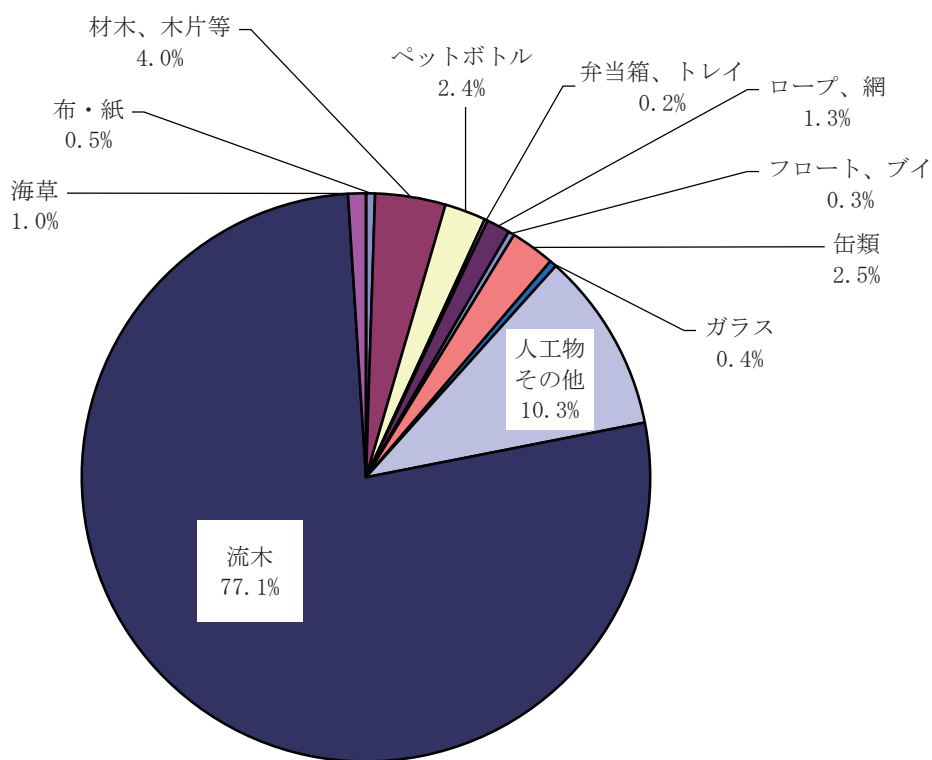


図 15 ごみの種類別割合（河岸）

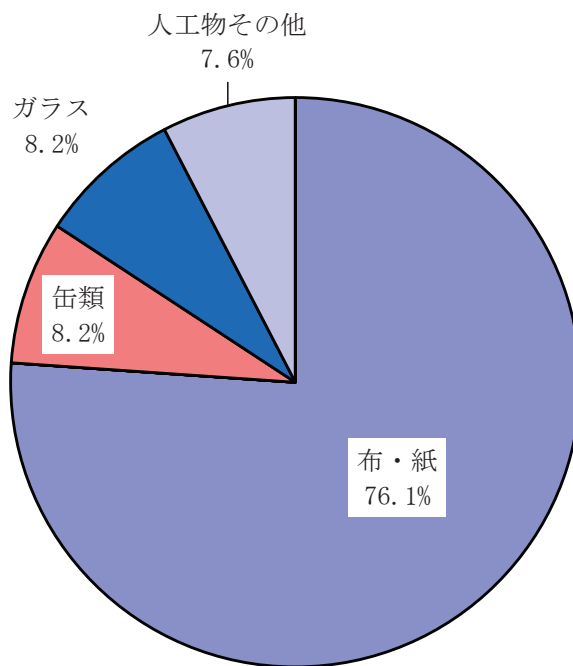


図 16 ごみの種類別割合（湖岸）

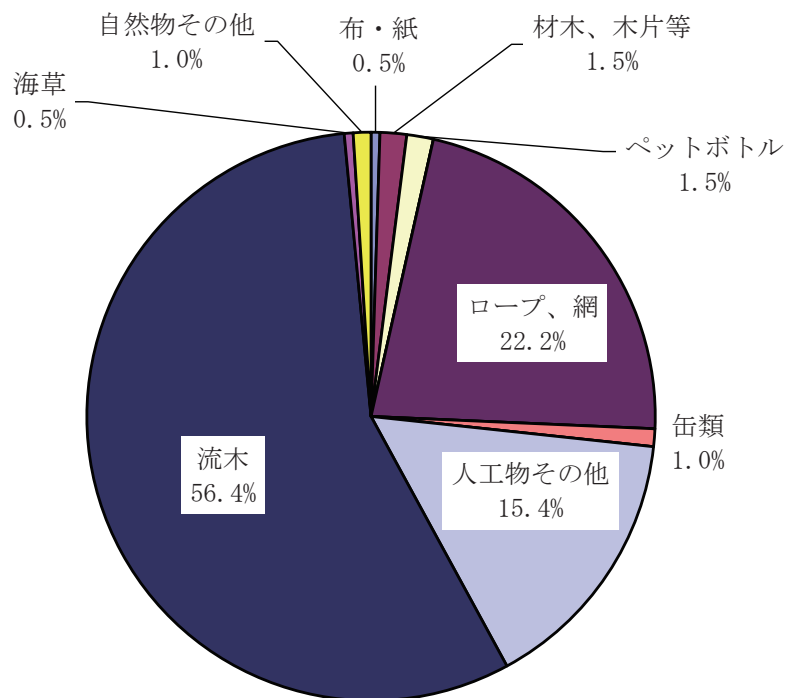
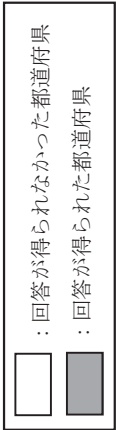
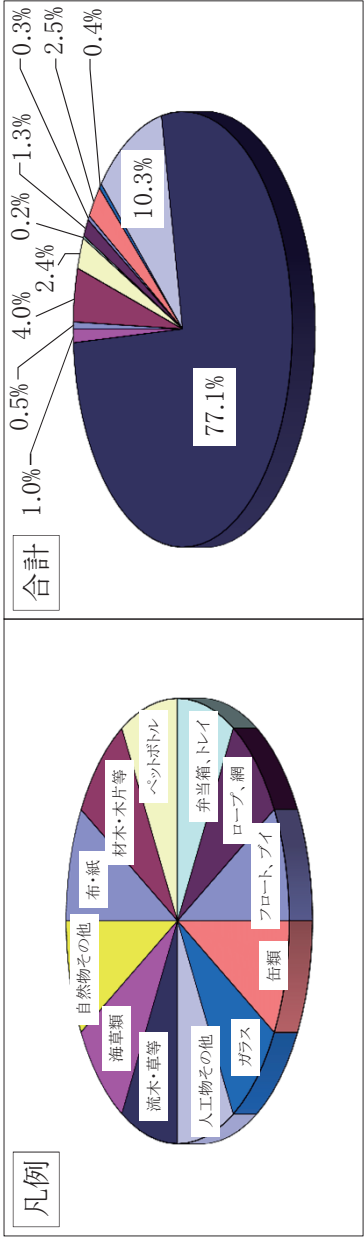


図 17 ごみの種類別割合（海域）

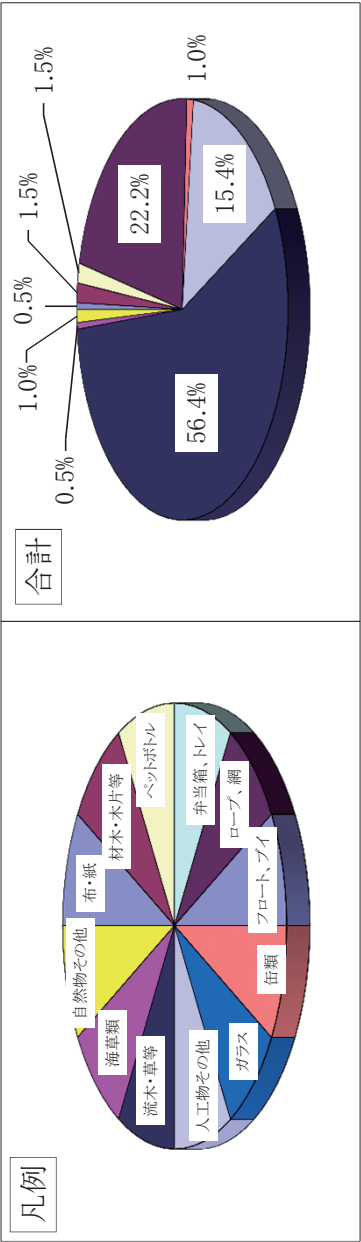
(3) 全国ごみマップ

ごみの種類別の割合について、都道府県毎に整理したマップを図 18、同じく海岸のごみマップを図 19 に、河岸のごみマップを図 20 に、湖岸のごみマップを図 21 に、海域のごみマップを図 22 に示す。



注) グラフが線状になっている場合、ごみの種類別回収量の報告がないことを表す。

図 20 海浜等清掃活動におけるごみの回収状況（河岸）

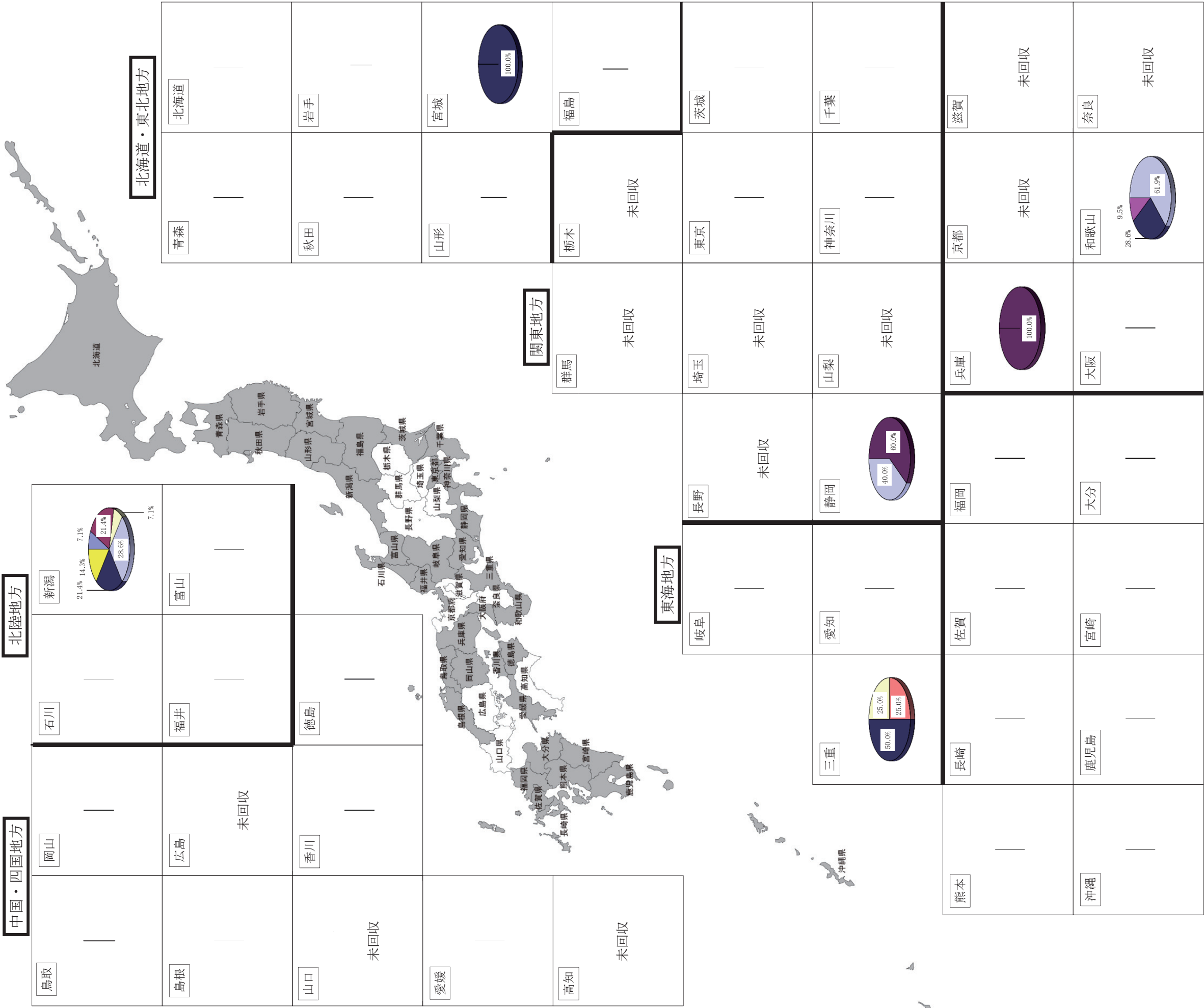


清掃活動の規模

清掃面積	4,949 km ²
清掃人数	5,968 人
ごみ回収量	199 ㎥

：回答が得られなかった都道府県

：回答が得られた都道府県



注) グラフが線状になっている場合、ごみの種類別回収量の報告がないことを表す。

図 2 2 海浜等清掃活動におけるごみの回収状況（海域）